

都市再生整備計画 事後評価シート  
佐久穂地区

平成29年2月

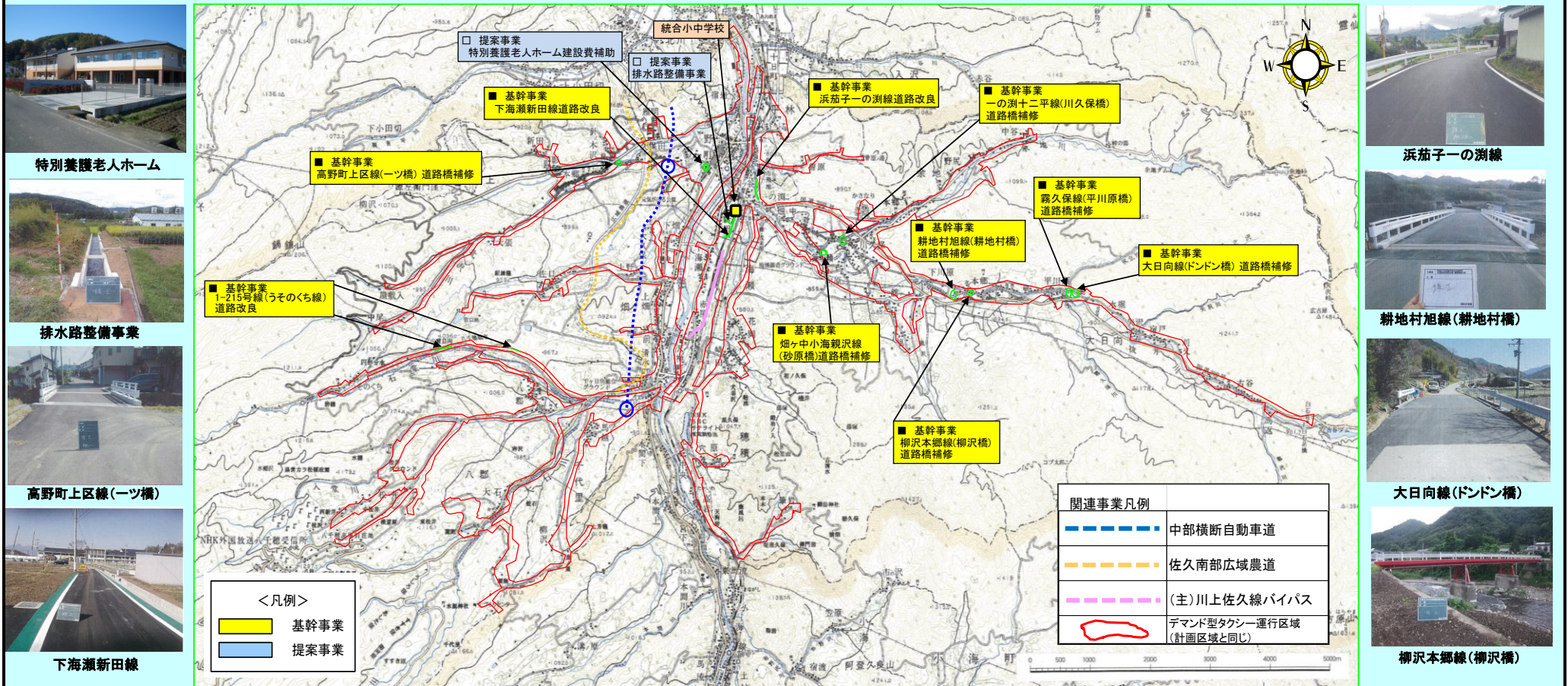
長野県佐久穂町



## 様式2-2 地区の概要

### 佐久穂地区(長野県佐久穂町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<安心安全で快適なまちづくり> 目標1 道路・道路橋の安全性を高めることにより安全なまちづくりを目指します。 目標2 子育て世代が働きやすい環境を整備するとともに、安心できる福祉体制の整備で、安心して快適なまちづくりを目指します。	橋梁長寿命化修繕計画の目標達成	単位:年	10年 H24	5年 H28	8年 H28
	特別養護老人ホーム待機者数の減少	単位:人/年	60人/年 H24	30人/年 H28	58人/年 H28



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年4月に開校した統合小中学校の通学路、幹線道路及び生活道路として整備を行い、狭あい区間を解消することで、地域住民及び児童・生徒の歩行者空間と安全な交通を確保することができた。</li> <li>高度経済成長期に建設され、50年が経過した危険性の高い道路橋から優先的に補強工事を実施した結果、地域住民の利便性及び安全性を確保することができた。</li> <li>特別養護老人ホームの開所により、長年施設入所待機を余儀なくされてきた要介護高齢者に、必要なサービスを提供できるようになった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁長寿命化修繕計画の対象となっている25橋(うち2橋は計画見直し)のうち、平成28年度までに修繕工事が完了していない道路橋9橋の計画的な修繕工事の実施</li> <li>今後も増えると想定される入所待機者に対して、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる仕組みとしての「地域包括ケアシステム」の構築</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	浜茄子一の測線	10.0	L=280m、W=4.0m	12.5	L=279.7m、W=4.0m	工事に路肩崩落箇所が確認され、路肩補強を行ったため事業費精算の結果、増額		●	
道路	1-215号線(うそのくち線)	139.0	L=250m、W=5.0~7.0m	118.6	L=207.0m、W=5.0~7.0m	事業量(道路延長)の減等により、事業費精算の結果、減額		●	
道路	下海瀬新田線	83.2	L=420m、W=4.0m	77.8	L=401.8m、W=4.0m	なし		●	
道路	3-99号線(崎田穴原線)	108.0	L=450m、W=5.0m	—	—	平成27年に計画変更して削除 関係機関との調整経航により中止	影響なし	—	—
道路	大日向線(ドンドン橋)	4.7	L=5.1m、W=5.5m	6.8	L=5.1m、W=5.5m	詳細設計の実施により上部工の激しい損傷がわかり、事業費精算の結果、増額		●	
道路	高野町上区線(一ツ橋)	9.9	L=6.1m、W=5.1m	15.3	L=5.1m、W=5.5m	詳細設計の結果、上部工及び下部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額		●	
道路	柳沢本郷線(柳沢橋)	10.1	L=30.7m、W=3.0m	17.5	L=30.7m、W=3.0m	詳細設計の結果、上部工及び下部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額		●	
道路	四ツ谷海瀬停留所線(八田崎橋)	3.6	L=11.5m、W=4.0m	—	—	平成27年に計画変更して削除 防災・安全交付金事業にて実施	指標1に間接的な影響があるが、数値目標は据え置く	—	—
道路	霧久保線(平川原橋)	9.6	L=19.0m、W=5.0~15.0m	41.6	L=19.0m、W=5.0~15.0m	詳細設計の結果、上部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額			●
道路	池の尾線(池の尾橋)	6.3	L=34.4m、W=4.0m	—	—	平成27年に計画変更して削除 防災・安全交付金事業にて実施	指標1に間接的な影響があるが、数値目標は据え置く	—	—
道路	川久保添田線(鳥井下橋)	2.9	L=34.4m、W=4.0m	—	—	平成27年に計画変更して削除 防災・安全交付金事業にて実施	指標1に間接的な影響があるが、数値目標は据え置く	—	—
道路	耕地村旭線(耕地村橋)	9.0	L=28.5m、W=5.0m	23.6	L=28.5m、W=5.5m	詳細設計の結果、上部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額		●	
道路	畑々中小海親沢線(砂原橋)	7.0	L=30.7m、W=4.0m	16.9	L=30.7m、W=4.0m	詳細設計の結果、上部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額		●	
道路	宿岩羽黒下駅線(八十嵐橋)	19.0	L=91.8m、W=5.5m	—	—	平成27年に計画変更して削除 防災・安全交付金事業にて実施	指標1に間接的な影響があるが、数値目標は据え置く	—	—
道路	羽黒下下村線支線4号(上木戸橋)	1.9	L=5.4m、W=4.2m	—	—	平成27年に計画変更して削除 防災・安全交付金事業にて実施	指標1に間接的な影響があるが、数値目標は据え置く	—	—
道路	一の測十二平線(川久保橋)	9.8	L=18.0m、W=5.5m	24.8	L=18.0m、W=6.5m	詳細設計の結果、上部工及び下部工の損傷が激しく事業費が大幅に増額		●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建築物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	特別養護老人ホーム建設補助	99.9	80床	100.0	80床	なし		●	
	児童クラブの整備	14.0	2箇所(各定員70人)	—	—	平成27年に計画変更して削除 放課後児童等健全育成事業にて実施	影響なし	—	—
	排水路整備事業	21.0	L=85m	23.0	L=97.7m	詳細設計の結果、事業量(延長)増となり、事業費精算の結果、増額		●	
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業	デマンド型タクシー運行車両購入	8.0	2台	—	—	平成27年に計画変更して削除 提案事業の交付金対象外となったため 取りやめ	影響なし	—	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
中部横断自動車道「長野新直轄」		佐久南IC～八千穂IC	5,130.0	5,130.0	平成15年～未定	平成15年～未定	整備中		
広域営農団地農業整備事業「佐久南部地区」		佐久穂町工区	388.4	388.4	平成11年～平成24年	平成11年～平成24年	完了		
〃		佐久穂町工区	96.0	96.0	平成23年～平成27年	平成23年～平成27年	完了		
県単道路改築事業		(主)川上佐久線 佐久穂町 海瀬	49.0	49.0	平成23年～平成29年	平成23年～平成29年	整備中		
統合小中学校		佐久穂町	5,000.0	5,000.0	平成23年～平成26年	平成23年～平成26年	完了		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	年	・橋梁長寿命化修繕計画の進捗状況を把握し、対象橋梁(25橋、うち都市再生整備計画の対象橋梁7橋)の修繕が目標値である5年で完了したか確認を行う。	—	—	10年	H24	5年	H28	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	8年	事後評価	△		
指標2	人/年	・平成28年3月時点の特別養護老人ホーム待機者数を把握し、これを年間の値として置き換え、目標値である30人/年との比較を行う。	—	—	60人/年	H24	30人/年	H28	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	●	58人/年	事後評価	△		
指標3									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・橋梁長寿命化の対象となっていた25橋(うち2橋は計画見直し)のうち、平成28年時点で工事が完了するのは14橋(約6割:計画見直し除く)であり、目標を達成できなかった。しかし、高度経済成長期に建造され、50年が経過した危険性の高い道路橋から優先的に補強工事を実施した結果、地域住民の利便性及び安全性を確保することができた。	
指標2	・平成28年3月現在の入所待機者数は58人となっていることから、目標値の30人/年は達成できなかった。しかし、建設補助により、平成26年6月に特別養護老人ホームが開所し(佐久穂町出身者32名入所)、長年施設入所待機を余儀なくされてきた要介護高齢者に必要なサービスを提供できるようになった。	・目標値設定の前提となる入所待機者数は、従前値である平成24年時点の60人/年を据え置いたまま、そこから特別養護老人ホームの開所に伴う計画人数である30人を引いたものとして設定されており、要介護者数全体の経年による増加が考慮されていないため、単純に評価値と比較できないものと考えられる。
指標3	—	
指標4	—	
指標5	—	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。  
 ※2 目標達成度の記入方法  
 ○:評価値が目標値を上回った場合  
 △:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合  
 ×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1			—	—			モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標2			—	—			モニタリング		
							事後評価		
その他の 数値指標3							モニタリング		
							事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
—	予定どおり実施した	—	—
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・事業を円滑に進めるため、また、目標に向けて確実な効果をあげるため、常に住民コンセンサスを取りながら行う。	予定どおり実施した	● ・教育委員会、PTA及び関係機関と連携し、通学路の危険箇所等を把握した。 ・年1回の地区要望の中で道路・道路橋の現状を把握し、必要に応じて実施を検討した。 ・特別養護老人ホーム開所に向けて、事業主体の事業者から関係者等への説明会を実施した。	・今後も通学安全推進会議、地区要望現地調査を継続する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
—	予定どおり実施した	—	—	—
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

### (3) 効果発現要因の整理

#### 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	建設課(整備係)、健康福祉課(高齢者係)	第1回 平成28年10月27日 第2回 平成28年12月 2日 (全2回)	総合政策課(政策推進係)

#### 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別				その他の数値指標1		その他の数値指標2	
指標名							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業							
提案事業							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2								
指標名		橋梁長寿命化修繕計画の目標達成			特別養護老人ホーム待機者数の減少								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路・浜茄子一の測線	△	橋梁長寿命化の対象となっていた25橋(うち2橋は計画見直し)のうち、目標値となる5年(平成28年時点)で工事が完了するのは14橋(約6割:計画見直し除く)であり、最終的な完了予定は平成31年度であることから、目標達成まで8年を要するものとなる。 ただし、都市再生整備計画の対象となった7橋のうち、6橋が修繕工事を完了し、残り1橋についても平成28年度内に修繕工事が完了することから、この点からは目標の5年を達成していると言える。	IV	—	平成28年3月現在の入所待機者数は58人となっていることから、目標値の30人/年は達成できていない。 ただし、都市再生整備計画の特別養護老人ホーム建設補助により平成26年6月に開所した特別養護老人ホームに佐久穂町出身者が32名入所しており、当該施設の開所がなかった場合に待機者数はさらに増加していた可能性もある。	I	—			—		
	道路・1-215号線(うそのくち線)	△											
	道路・下海瀬新田線	△											
	道路橋・大日向線(ドンドン橋)	△											
	道路橋・高野町上区線(一ツ橋)	△											
	道路橋・柳沢本郷線(柳沢橋)	△											
	道路橋・霧久保線(平川原橋)	△											
	道路橋・耕地村旭線(耕地村橋)	△											
	道路橋・畑ヶ中小海親沢線(砂原橋)	△											
	道路橋・一の測十二平線(川久保橋)	△											
提案事業	地域創造支援事業・特別養護老人ホーム建設補助	—			△			—			—		
	地域創造支援事業・排水路整備事業	△			—			—					

※目標未達成への影響度

- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕工事未完了の道路橋9橋の計画的な修繕工事の実施</li> <li>・住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける仕組みづくり</li> </ul>	
------------------	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	建設課(整備係)、健康福祉課(高齢者係)	第1回 平成28年10月27日 第2回 平成28年12月 2日 (全2回)	総合政策課(政策推進係)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
道路、道路橋の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年4月に開校した統合小中学校の通学路、幹線道路及び生活道路として整備を行い、狭あい区間を解消することで、地域住民及び児童・生徒の歩行者空間と安全な交通を確保することができた。</li> <li>高度経済成長期に建設された道路橋が、建造後50年を経過する中で、老朽化を迎える時期となっていたため、危険性の高い道路橋から補強工事を実施した結果、地域住民の利便及び安全性を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修繕工事未完了の道路橋の修繕が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>
安心できる福祉体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別養護老人ホームの開所により、長年施設入所待機を余儀なくされてきた要介護高齢者に、必要なサービスを提供できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ入所待ちの待機者がいる状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に入所施設ができたことで、在宅介護が続けられそうな高齢者も、施設入所を考えるようになった。</li> </ul>

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・平成28年度までに修繕工事が完了していない道路橋9橋の修繕	・修繕工事未完了の道路橋9橋の計画的な修繕工事の実施	・社会資本整備総合交付金事業(道路事業・防災安全交付金)
	・今後も増えることが想定される特別養護老人ホームの待機者への対応	・住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける仕組みづくり	・「地域包括ケアシステム」の構築

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・なし
-----

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	橋梁長寿命化修繕計画の目標達成	年	10	H24	5	H28	確定 ●	見込み	8	△	あり ●	なし ●	→	—	—	—
指標2	特別養護老人ホーム待機者数の減少	人/年	60	H24	30	H28	確定 ●	見込み	58	△	あり ●	なし ●	→	—	—	—
指標3							確定	見込み			あり	なし	→			
指標4							確定	見込み			あり	なし	→			
指標5							確定	見込み			あり	なし	→			
その他の数値指標1							確定	見込み					→			
その他の数値指標2							確定	見込み					→			
その他の数値指標3							確定	見込み					→			

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		<p>・年数を目標値として設定するような場合は、事業計画の変更の際に、必要に応じて目標値の見直しも必要であると考えられる。</p>
	うまく いかなかった点	<p>・指標1(橋梁長寿命化修繕計画の目標達成)に関しては、事業計画の変更の際(事業費の大幅な増額による事業の削除及び他事業への振替、主要幹線的機能を持つ道路橋の優先的実施)に、その時点における目標値達成の見通しを勘案した上で、必要に応じて目標値を見直すという選択肢もあったのではないかと考えられる。</p>	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		<p>・今後、同様の指標設定を行う際には、高齢化の進行とこれに伴う要介護者数全体の経年増加を考慮する必要があると考えられる。</p>
	うまく いかなかった点	<p>・指標2(特別養護老人ホーム待機者数の減少)の目標値設定の前提となる入所待機者数は、目標である平成28年時点においても、従前値である平成24年時点の60人/年を据え置いたまま、そこから特別養護老人ホームの開所に伴う計画人数である30人を引いたものとして設定されており、要介護者数全体の経年による増加が考慮されていないため、単純に評価値と比較できないものと考えられる。</p>	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

### 添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・特になし



(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成28年12月19日 ～平成29年1月6日	平成28年12月19日 ～平成29年1月6日	担当課への郵送、FAX 電子メール、窓口での 意見書	総合政策課 (政策推進係)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に町のホームページ及び 担当課窓口で原案を公表して いる旨を掲載	平成28年12月22日 (広報さくほ12月号)	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課窓口にて閲覧	平成28年12月19日 ～平成29年1月6日	平成28年12月19日 ～平成29年1月6日		

住民の意見	・特になし				
-------	-------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	信州大学経法学部応用経済学科 准教授 武者 忠彦	第1回 平成29年1月17日	総合政策課(政策推進係)	佐久穂町都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	佐久穂町総合計画審議会委員 高見澤 敏光 " 高見澤 栄子 " 丸山 信代				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1(橋梁長寿命化修繕計画の目標達成)においては、計画期間中に事業部門と計画部門の連携により、目標達成の見直しができれば達成度も上がったのではないかと、という意見があった。 ・指標2(特別養護老人ホーム待機者数の減少)においては、目標値設定の際に経年的な要介護者数の増加がなぜ考慮されなかったのか、という意見があった。 ・上記二つの意見に対しては、事後評価原案様式6「当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方」においてうまくいかなかった点として整理し、今後へ活かすべき内容として記載していることを事務局より説明した。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・指標2の総合所見における「平成26年6月に開所した特別養護老人ホームに佐久穂町在住者が32名入所」について、「佐久穂町在住者」ではなく、「佐久穂町出身者」が適切である旨が確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案については、町民に適切に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・橋梁の修繕工事のような高額な事業は、リスクと財政のバランスをとるため、「部局間の意思疎通をしっかりとって計画を弾力的につくること」、「事前の予測(見積り)の精度をできるだけ上げること」、という意見があった。
	フォローアップ	—
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。